

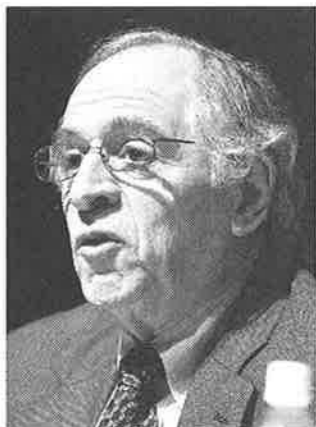
SHANGHAI / TOKYO GLOBAL CONFERENCE  
 上海・東京グローバルコンファレンス  
 第2回東京大会 広告特集

世界経済を支える東アジア経済圏の  
 成長について

東アジア都市が真の交流を図るために

【特別対談②】

今後の中・日米の3カ国関係／政治からの視点／



コロンビア大学 教授  
 ジェラルド・カーティス氏

カーティス いま、東アジ

アでは構造的な変革が起きている。オバマ大統領のアジア歴訪で、日米中韓の4国が友好的な関係を築こうとしていることが明らかになり、これからの東アジアの発展に期待感を抱かせた。それぞれの関係においては、もちろん課題もある。日米関係はこの先の安保関係をどうするかという基本的な問題は避けて通れない。米中関係では、人民元の切り上げを行わなければ米国内で大きな問題になるだろう。米中関係の悪化が日本やアジア地域全体へ与えるダメージは非常に大

きはずだ。

朱 オバマ大統領のアジア歴訪は、米国が東アジア地域

日米中の関係強化が  
 東アジア発展の要

での国際関係の新しい枠組みの模索を始めたことと表れだと思える。特に、中国との関係については、「国際社会の中でより大きな役割を果たす中国を歓迎する」とし、中国も「米国がアジア太平洋の国としてこの地域の平和安定と繁栄に努力することを歓迎する」と表明した。米中がこれから対

あると考えていることだ。しかし、それは今回の対談では



東洋学園大学 教授  
 朱 建栄氏

「パネルディスカッション」

上海と東京の交流が生み出す東アジア経済圏の発展

モデレーター  
 竹中 平蔵氏(日本経済研究センター特別顧問・慶応義塾大学教授)  
 パネリスト(50歳前後)  
 大西 隆氏(東京大学教授)  
 黒川 清氏(政策研究大学院大学教授)  
 周 牧之氏(東京経済大学教授)



竹中氏

竹中 まず、東アジア交流という観点から皆さんの意見を伺いたい。

大西 専門分野である都市工学の立場から世界を見た場合、これからはまさに「アジアの時代」といえる。第2次大戦直後の世界の都市人口は欧米が5割を占めていたが、現在ではアジアの人口が最も高いシェアを示しており、2050年にはアジアとアフリカ、この2地域に世界の都市人口の7割が集結すると予測されている。都市の力は人口だけで示せるものではないが、人口の多いところで文明や経済活動が活性化

黒川 金融、企業、サイエ



大西氏

周 このわずか20年間でアジアは激しく変化した。そ

の次世代の姿が見られないのが残念だ。

都市間交流が活性化を促す

都市人口のことも多いのはアジア

グローバルな視野を持つ若者育成を

パラダイムシフトに順応する都市力

竹中

次世代リーダーたちがグローバルな交流を深めながらアジア成長を糧に羽ばたこうとしている。そのネットワークに経済大国日本の

の背景にはIT(情報技術)革命や市場経済化の拡大、グローバルゼーションといったパラダイムの変化があった。この東アジア地域で成長を遂げている国や地域は必死にその変化に順応してきたのだ。中国の今日の成長もパラダイムシフトへの対応の結果であり、それは中国人自身の想像をはるかに超えたものである。

大西 アジアの交流がさらに盛んになるなかで、日本社会がアジアで中心的な役割を果たしていくには言葉の問題を解決する必要がある。特に研究者や第二線で活躍する人が、アジアの中の共通語を通じてコミュニケーションをとることをはじめていかなければならない。また、特に大学、そのアジアの若い人材の交流の場であり、日本で知識を得た留学生を企業や社会に受け入れる習慣や体制づくりもさらに真剣に検討しなければならない。



周氏

黒川 アジアがグローバル化するスピードやそのネットワークに、日本が乗り遅れている気がしてならない。上海や東京といった都市



黒川氏

竹中 日本や中国、そしてアジアは変化を続けることでここまで大きく成長した。しかし、日本をはじめ多くの国が、変化できない部分と直面している。この問題を解決できるのは、上海や東京といった都市間の交流であり、その交流を通じた活性化が求められているのだ。

竹中 日本や中国、そしてアジアは変化を続けることでここまで大きく成長した。しかし、日本をはじめ多くの国が、変化できない部分と直面している。この問題を解決できるのは、上海や東京といった都市間の交流であり、その交流を通じた活性化が求められているのだ。